

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている			
	やや良く なっている	一般小売店 〔酒〕（経営 者）	販売量の動き	・今月半ばまではあまり良いと言えない状況であったが、後半に入ってから売上がかなり盛り返している。
		百貨店（販売促 進担当）	来客数の動き	・天候が安定し、気温が上昇するにつれて、衣料品を中心に客の購買量が増えてきている。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・1月以降、販売量は上向きになってきている。
		スーパー（役 員）	販売量の動き	・前年は東日本大震災で工場が被災したことで、食料品等が十分に供給されず、欠品する商品が多数あったが、今年は潤沢に商品が供給されているため、品ぞろえも良く、売上が増加している。
		コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・東日本大震災後の売上変動の反動があり、売上の変化を読みづらい状況ではあるが、来客数は少しずつ回復傾向にある。
		衣料品専門店 （店長）	それ以外	・前年と違い、天候状況が良くなかったことから販売動向が弱い印象であったが、気温が上昇するにつれて、消費が上向いてきている。また、東日本大震災から1年が経過し、消極的だった買物動向も回復している。
		家電量販店（地 区統括部長）	販売量の動き	・前年の家電エコポイント制度の終了と地上デジタル放送化の影響は依然として続いているが、年末から比べるとテレビの販売量が若干増えつつある。
		乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・エコカー減税とエコカー補助金の効果により、前年よりも売上がかなり良い。
		乗用車販売店 （営業担当）	販売量の動き	・新型車効果の持続とエコカー減税、エコカー補助金の効果が大きい。
		観光型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・依然として低価格競争は続いているが、国内のメディア募集型商品とWeb商品で人員を稼ぐ結果となった。
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・3月のビジネス需要及び観光需要は伸びてきている。前年は東日本大震災の影響でアウトバウンド、インバウンドともに大きく減少していたため、前々年との対比でどこまで回復できるかが上期のポイントとなる。
		美容室（経営 者）	お客様の様子	・来店時に関連商品の説明をすると以前より客の反応が良く、買上につながるが多くなってきた。
		住宅販売会社 （経営者）	お客様の様子	・為替が円安基調に振れているなか、復興需要への期待もあって、客の消費や投資のムードが大変良くなっている。
住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・広告量を減らしているにもかかわらず、販売量については月初めの段階で3月の目標を達成した。分譲マンションの販売については、価格が手ごろであればとにかくよく売れる。		
変わらない	商店街（代表 者）	お客様の様子	・新入学、就職関連の商品に少しずつ動きは出ているが、前年に比べて動きが鈍い。雪解けが遅いことから、特に春物の衣料品や靴などの動きが悪い。悪天候が続いているため、商店街への来街も少ない。	
	商店街（代表 者）	お客様の様子	・春めいてきて、少しは消費者の声にも弾みが出てきている。しかし、先行きへの心配感があるためか、客の慎重な購入態度は依然として変わらない。	
	商店街（代表 者）	お客様の様子	・例年であれば、3月は春物に動きがみられるが、今年は気温が低いままであるため、なかなか客の購買意欲がわかないようであり、卒業、進学、就職関連以外の春物の動き出しが遅い。気温にも左右されており、良かったり悪かったりを繰り返し、販売量がなかなか伸び切れない状況にある。	
	商店街（代表 者）	お客様の様子	・景気に変化はない。天候状態により客の動きが違うため、基本的な状況は以前と変わらない。	
	商店街（代表 者）	販売量の動き	・今月初旬は、世界ジュニアスピードスケート選手権大会の効果により、若年層を中心とした客層による飲食及びスポーツ関連衣料品等で売上の増加があったが、大会終了にともない、売上は激減した。しかしながら、下旬に入り、地元客による入学卒業及び就職等のための買物が百貨店を中心に目立つようになっており、販売量が増加傾向となっている。	

一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・客との会話からは、自己防衛の気持ちが強く、なかなか消費をしようという気になれないという話をよく聞く。福島県からの被災者の旅行客も少しずつみられるようになってきているなど、少しは期待感も出てきているが、大きくは変わっていない。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・前年は東日本大震災後の来客数減少の影響で売上も非常に厳しく、前年比90%を下回っていた。今年は、前年以上に寒さが厳しく、雪の降る日も多かったが、春物の動き、物産催事での客の動員が多く、売上が非常に増加している。特に婦人物のニット、カットソーの売上は前年比120%を超えている。
百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数を前年と比較すると、東日本大震災直後の営業日こそ増加になったものの、その後は前年並みか減少で推移している。前年は駅前通に地下歩行空間が開通したこと恩恵で3月後半から来客数が増加で推移していたが、一巡した今年は震災の影響を差し引いても苦戦している状況にある。
百貨店（役員）	来客数の動き	・今年は大雪による影響がかなり出ている。今月も春物ファッションが動かず、購買につながっていない。自転車も前年の半分以下の販売量となっている。自転車は雪解け後に動きがずれ込むとみられるが、減少分をばん回できるかは微妙である。
スーパー（企画担当）	販売量の動き	・前年の東日本大震災の反動から足元の売上動向は読みにくい、前々年と比較しても売上が伸びておらず、やや停滞気味の状況にある。
スーパー（役員）	来客数の動き	・前年に東日本大震災後の仮需要やメーカーの資材不足から商品の品切れ等が発生したこともあり、今は消費者動向を比較しづらい月である。来客数は前年比で0.7%上昇しているものの、商品単価の低下などもあり、客単価は前年比100.4%と、ここ数か月変わらない状況で推移しており、全体的な状況に変化はみられない。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年の東日本大震災にともなう一時的な商品買いだめの反動で、今月の売上は前年比では厳しい。しかし、夜間の来客数は、震災以降、依然として減少し続けている。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・なかなか景気が良くならないことに焦っているが、良くなることを願っている。
衣料品専門店（店員）	単価の動き	・入学、卒業や転職、異動のシーズンで出費が大きくなか、ガソリンの価格高騰の影響もあり、春物衣料の消費動向については、質が良くて少しでも安くなっている商品が求められている。
家電量販店（店員）	お客様の様子	・春商戦の1人立ちセットは例年並みによく売れているが、余計な買物をしない客が多い。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・マスコミ品ナショナルブランドは大手スーパー、ドラッグの専売となった。小規模店は独自の専門品に特化しないと生き残れない。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数がさほど増えていない。
高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・前年は東日本大震災の影響もあったため、前年との比較はできないが、前々年との比較では売上は93%となっている。3月中旬までは天候が悪く、客足が鈍かったが、下旬からは週末のランチはほぼ満席であった。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・寒い日が多かったため、客の入りやや悪かった。通常メニューはあまり人気がないが、低価格のフェアメニューは好調である。地方都市の飲食店は、以前の繁盛店も来客数の減少に歯止めがかからず、苦しい状況が続いている。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・個人、法人ともに1か月前受注が多く、先行案件が少ない。消費者も先行きを手探りしているようで、結果的に間際の受注となっている。ただ、前年の東日本大震災の影響は薄れてきている。
タクシー運転手	来客数の動き	・前年は東日本大震災の影響で観光客が全く来なくなり、地元も自粛ムードでタクシーの売上も激減したが、今年は前年よりも売上が増加している。3か月前と比べても客の利用状況は変わらない。
タクシー運転手	販売量の動き	・例年より雪の日が多かったため、タクシーの利用客は若干伸びているが、景気そのものが良くなったというわけではない。

	通信会社（社員）	お客様の様子	・報道をみると、株価の上昇や景気回復の兆しに関する好調が報じられているが、一般の個人事業主の話を聞くと、決してそのような感じはなく、来客数の減少、売上の維持又は減少がほとんどで何も変わっていない。都市部と地方部との温度差がとても大きく、違和感がある。
	通信会社（企画担当）	競争相手の様子	・春商戦の効果もあり、想定以上の客から通信機器導入、更新の引き合いを受けているものの、競合他社への流出が前年以上に増加している。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・来場者については冬のイベントなどの効果もあり、3か月前に比べると153%と増加しているが、東南アジアからの来場者が減少傾向にあるなど、依然として東日本大震災の影響が残っている。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・この3か月間、売上が前年を約5%下回っている。特に何が悪いというわけではないが、売上の伸びない状況にある。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・景気があまり良くないため、先が全然見えない。意見の述べようがないほど世の中が大変な状況である。灯油高騰、ガソリン高騰、その他社会の動きがあまりにもひどすぎる。もう少し国がしっかりしてくれないと困る。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・年度替わりの3月だが、来客数の動きに変化がみられない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・売上としては、前年の東日本大震災の反動もあり、前年を上回っているが、来客数が増えていない。ガソリンの高騰が影響しており、車で来店する客が減っている。
	百貨店（売場主任）	単価の動き	・3月は25日までの全店での売上が前年比96.3%、買上客数が前年比96.6%、客単価が前年比99.0%となっており、客単価はやや前年を下回って推移しているが、買上客数が96.0%前後に落ち込んでいる。10月から1月まで売上が前年並みに回復してきたが2月から苦戦傾向にある。
	自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・寒さが長引いていることと、店内改装のため、数日臨時休業したことがマイナス要因となっている。しかし、季節の影響を受けない商品も動きが鈍いため、全体としてはやや悪い状況となっている。競争相手の様子確かめたいので、取組を見直したい。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格の急騰により、節約志向が強くなっている。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・東日本大震災のあった前年よりは来客数が増えているが、原油高騰とまだ冬のような天候が続いていることがマイナス要因となっており、とても上向きとは言えない状況にある。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・1月は海外客の回復もあり、若干持ち直したが、依然として首都圏、関西圏からの国内客が大幅に落ち込んだままである。さらに、旅行需要が弱いため、旅行会社を中心に宿泊単価の値下げ要請が相次いでおり、非常に厳しい状況となっている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・前年の3月と比較すると、120%の売上であるため、東日本大震災の影響による落ち込みは回復したと思われるが、3か月前の売上と比較すると約8%の落ち込みとなっている。3か月前は、非常に寒く雪が多かったため、タクシーの需要も伸びた。しかし、3月に入って、動きが落ち着いている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・前年と比べて注文数が減少している。特に観光目的の客からの注文数が大きく減っている。
	悪くなっている	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き
企業動向関連	良く なっている	-	-
	やや良くなっている	家具製造業（経営者） 建設業（従業員）	受注量や販売量の動き 競争相手の様子

	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・ここしばらくの身の回りの景況感は低迷が続いていたが、2月下旬から販売量が明らかに回復傾向となっている。	
	コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量は非常に増えている。期末という影響を考慮しても上向きである。	
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が増えている。ただし、年度末ということでの一時的な動きとみられる。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・官庁関連からの年度末の駆け込み需要が多かったせいから今月はやや好調だった。	
変わらない	食料品製造業（団体役員）	それ以外	・年度替わりにともなう消費需要と新規雇用者の増加に明るさがみられるものの、原油価格高騰により、燃料油や光熱費などの生産コストが上昇しており、経営環境に厳しさがみられる。	
	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・受注が伸びず、以前のままの状態で推移している。	
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・円安傾向となったことで、スクラップの輸出が開始されている。また、震災復興向けとみられるが、東北への道産カラ松の内航船輸送が決定している。	
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・通常であれば、年度末を迎えて、メーカーの決算対策から物流量が増加する月であるが、大きな変化がみられない。政府の補正予算がようやく決まったが、全体的に遅れが目立っており、スピード感に欠ける。北海道は雪解けが遅れているが、具体的な案件の動きも鈍い。	
	金融業（企画担当）	それ以外	・個人消費は、大雪や寒波の影響で春物衣料の出足が鈍るなど弱めの動きとなっている。観光関連は外国人観光客の入込がほぼ東日本大震災前の水準に戻っている。建設関連は一部ではあるが復興需要がみられる。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引、建築関連は低調のまま推移している。ただし、冬期間が終わり、若干の明るさが見えてきている。	
	司法書士	取引先の様子	・雪解けとともに不動産取引も若干増えてきたが、依然として景気回復の兆候は見えないため、取引が活発化している状況にはない。消費税の増税問題だけがクローズアップされ、経済政策の方向性が見えないため、景気動向に変化が出てこない。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・燃料費の値上がり深刻との話を多業種のユーザーから聞く。	
やや悪くなっている	司法書士	取引先の様子	・冬期間で建物工事が皆無のなか、土地の売買も少ない。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・土木建設業の回復と農産品加工業の安定性もあり、求人広告受理件数は前月比で2%、前年比で9%増加している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・2月に引き続き、東北の復興需要の影響もあり、建設関連の求人が増加している。宿泊業もアジア人観光客が戻ってきており、上向き傾向になっている。また、ホテルだけでなく、年度末の契約更新に向けた案件対応による清掃系の求人も増えている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は13.9%増加し、25か月連続で前年を上回った。また、月間有効求人数は19.7%増加し、25か月連続で前年を上回った。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・リーマンショック以降、少しずつ回復基調にあるが、景気回復に向けての決定的な明るい材料がない。
新聞社〔求人広告〕（担当者）		求人数の動き	・3月の募集広告売上は前年比110%と大きく伸びた。特に小売、土建不動産、自動車関連での伸び率が顕著だった。また、大口の医療、派遣も微増となり、全体の底上げに貢献した。	

	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	<ul style="list-style-type: none"> 管内の1月の新規求人数は前年比11.7%の増加となった。新規求職者数は前年比12.6%の減少となった。この結果、月間有効求人倍率は0.63倍となり、前年の0.51倍を0.12ポイント上回った。しかし、求人数のうち正社員求人の占める割合は42.9%にとどまっており、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
	職業安定所（職員）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> 管内の求人倍率は0.54倍と前年を0.09ポイント上回ったが、依然として高い水準とは言えない。
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 例年であれば、春商戦に向けて家電量販店やスーパーからの派遣需要が多くなる時期であるが、今年は東日本大震災のあった前年並みの需要で推移している。また、労働者派遣法改正の議論を受けて、大手企業で派遣の活用について神経質な対応が目立っており、派遣需要の盛り上がりには欠けている。
	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 求人数に比べて求職者の数が圧倒的に多い。
悪くなっている	-	-	-